

子どもの転出入状況の分析

2025年9月22日（案更新）

今後の作業の進捗や精査により、数値が変動する可能性があります。

データ分析の概要

●目的

子どもの移動（引っ越し）の状況から、子育てファミリー層の転入・転居・転出動向を把握し、取組検討の基礎とする。

●分析データ

期間：2020～2024年度

対象：0～9歳児（各年度4月1日現在の年齢）

転入・転居・転出（住基データ）

移動データ数：7,848件（個人ベースでの重複あり）

※上記は外国との転出入（171件）、転入元不明を含まない移動データ数。

総数は、各年度4月1日現在で誕生していなかった人数（未誕）を含む。

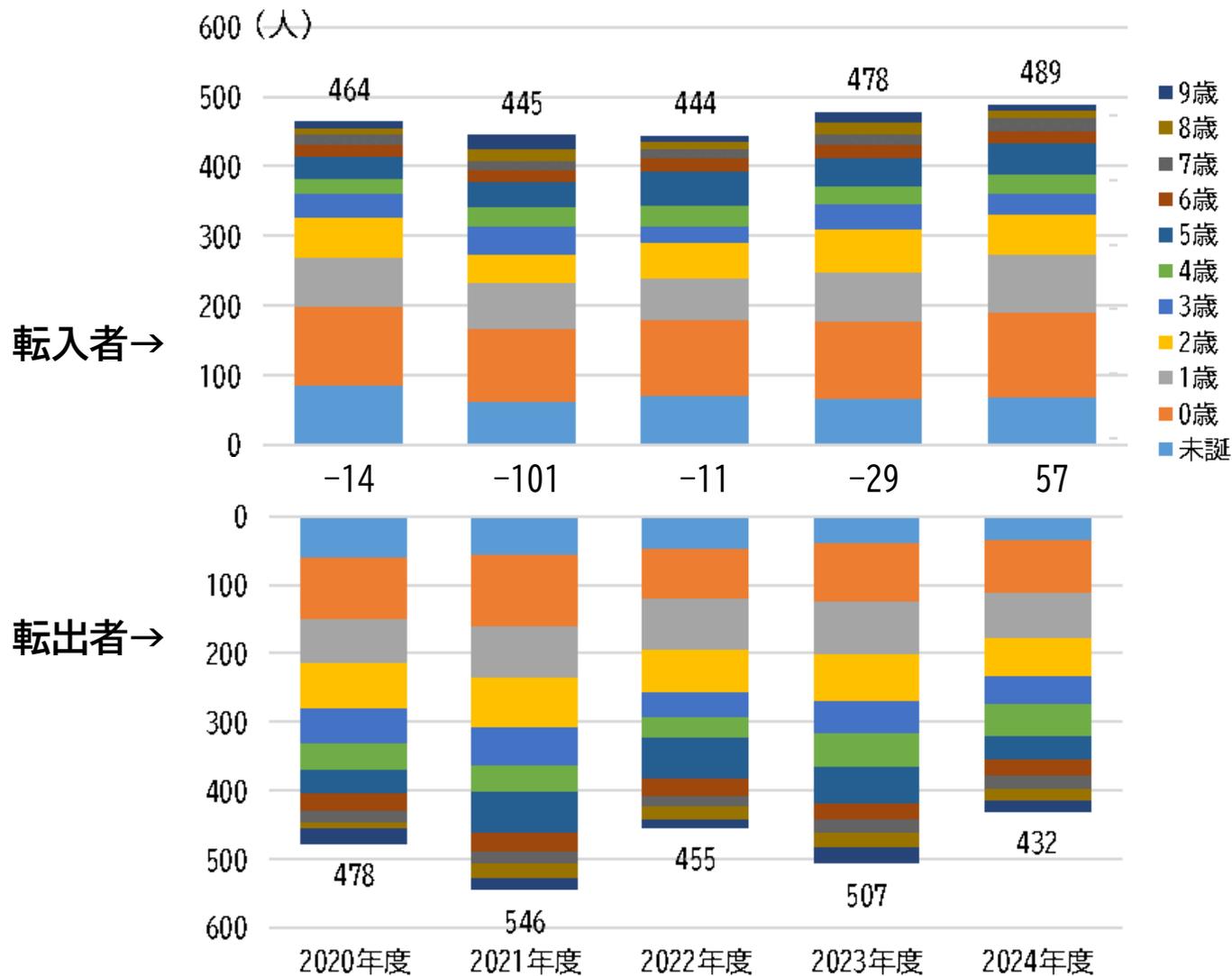
データ分析の概要

●内容

- 【1】 移動（引っ越し）の全体状況の分析 （p4～18）
- 【2】 転出入先の分析（大阪通勤圏11地域別） （p20～29）
- 【3】 転出入・転居先の分析（小学校区別） （p30～42）
- 【4】 転出入・転居の統合分析 （p43～47）
- 【5】 子どもの転出入状況の分析から見える課題 （p48）

【1】① 移動（引っ越し）の全体状況（年齢別）

➡ 転出超過の年もあるが転入数に伸びが見られる
0～1歳の転入数に伸びが見られる。



【1】② 移動（引っ越し）の全体（転入出・転居）状況

➔ 0～4歳児は、2021年度以外は**転入超過**

➔ 5～9歳児は、継続して**転出超過**

0～4歳

年度	転居	転出	転入	合計	転出入差
2020	426	369	382	1,177	13
2021	443	402	342	1,187	-60
2022	405	324	343	1,072	19
2023	406	366	371	1,143	5
2024	431	321	389	1,141	68
合計	2,111	1,782	1,827	5,720	45

5～9歳

年度	転居	転出	転入	合計	転出入差
2020	209	109	82	400	-27
2021	192	144	103	439	-41
2022	204	131	101	436	-30
2023	188	141	107	436	-34
2024	206	111	100	417	-11
合計	999	636	493	2,128	-143

【1】③ 転入の全体状況

- ➡子ども（2歳児以下）は、全体の約7割
- ➡0歳児以下の転入数は、200人弱で推移

(件)

年度	未誕	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	総計
2020	84	114	71	58	33	22	32	17	15	9	9	464
2021	62	104	67	39	41	29	35	17	14	16	21	445
2022	71	109	58	52	24	29	49	20	12	11	9	444
2023	65	112	70	62	36	26	40	19	15	18	15	478
2024	69	121	82	58	31	28	45	16	19	12	8	489
合計	351	560	348	269	165	134	201	89	75	66	62	2,320
構成比	15%	24%	15%	12%	7%	6%	9%	4%	3%	3%	3%	100%



表中の「緑色」のセルは比較的大きな数値（転入が多い）、「赤色」のセルは比較的小さな数値（転入が少ない）を表しています。

【1】④ 転出の全体状況

- ➔ 2歳児以下は、**全体の約6割**
- ➔ 0歳児以下の転出数は、**減少傾向**

(件)

年度	未誕	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	総計
2020	61	89	64	66	52	37	34	27	16	10	22	478
2021	55	106	75	73	55	38	59	29	17	20	19	546
2022	47	73	75	62	37	30	58	26	16	18	13	455
2023	39	85	78	68	47	49	54	22	19	22	24	507
2024	35	77	65	57	39	48	35	23	18	18	17	432
合計	237	430	357	326	230	202	240	127	86	88	95	2,418
構成比	10%	18%	15%	13%	10%	8%	10%	5%	4%	4%	4%	100%



表中の「赤色」のセルは比較的大きな数値（転出が多い）、「緑色」のセルは比較的小さな数値（転出が少ない）を表しています。

【1】⑤ 転出入差の全体状況

- ➡ 0歳児以下は、**転入超過**
- ➡ 1歳以降は、**転出超過**

(件)

年度	未誕	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	総計
2020	23	25	7	-8	-19	-15	-2	-10	-1	-1	-13	-14
2021	7	-2	-8	-34	-14	-9	-24	-12	-3	-4	2	-101
2022	24	36	-17	-10	-13	-1	-9	-6	-4	-7	-4	-11
2023	26	27	-8	-6	-11	-23	-14	-3	-4	-4	-9	-29
2024	34	44	17	1	-8	-20	10	-7	1	-6	-9	57
合計	114	130	-9	-57	-65	-68	-39	-38	-11	-22	-33	-98

表中の「緑色」のセルは比較的大きな数値（転入超過が多い）、「赤色」のセルは比較的小さな数値（転出超過が多い）を表しています。

【1】⑥ 5歳の転出入差の状況

➡ 5歳は、2020-2023年度は、**転出超過**となっており
2024年度は**転入超過**に転じた。

各年5歳

年度	転居	転出	転入	合計	転出入差
2020	65	34	32	131	-2
2021	63	59	35	157	-24
2022	66	58	49	156	-9
2023	67	54	40	173	-14
2024	76	35	45	161	10
合計	337	240	201	778	-39

【1】⑦ 守口市内での転居の全体状況

- ➡ 0歳児は、2024年度以外は100に近い転居数で推移
- ➡ 6歳以降は、0歳の半数程度の規模で推移

(件)

年度	未誕	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	総計
2020	34	95	80	81	79	57	65	39	42	27	36	635
2021	61	95	93	77	50	67	63	38	35	25	31	635
2022	41	90	98	59	69	48	66	48	36	26	28	609
2023	41	90	77	75	61	62	67	33	31	36	21	594
2024	41	80	86	95	66	63	76	36	41	26	27	637
合計	218	450	434	387	325	297	337	194	185	140	143	3,110
構成比	7%	14%	14%	12%	10%	10%	11%	6%	6%	5%	5%	100%

表中の「緑色」のセルは比較的大きな数値（転居が多い）、「赤色」のセルは比較的小さな数値（転居が少ない）を表しています。

【1】⑧ 転出か転居を選ぶ割合の全体状況

- ➔ 0～4歳は、2024年度に選択率が65.0%まで上昇。
- ➔ 5～9歳は、2024年度に選択率が73.6%まで上昇。

0～4歳

年度	移動件数			選択率		
	転居	転出 大阪 通勤圏	合計	転居	転出 大阪 通勤圏	合計
2020	426	301	727	58.6%	41.4%	100%
2021	443	315	758	58.4%	41.6%	100%
2022	405	262	667	60.7%	39.3%	100%
2023	406	255	661	61.4%	38.6%	100%
2024	431	232	663	65.0%	35.0%	100%
平均	422	273	695	60.7%	39.3%	100%

5～9歳

年度	移動件数			選択率		
	転居	転出 大阪 通勤圏	合計	転居	転出 大阪 通勤圏	合計
2020	209	81	290	72.1%	27.9%	100%
2021	192	110	302	63.6%	36.4%	100%
2022	204	97	301	67.8%	32.2%	100%
2023	188	105	293	64.2%	35.8%	100%
2024	206	74	280	73.6%	26.4%	100%
平均	200	93	293	68.1%	31.9%	100%

〔1〕◎転出か転居を選ぶ割合の全体状況（5歳）

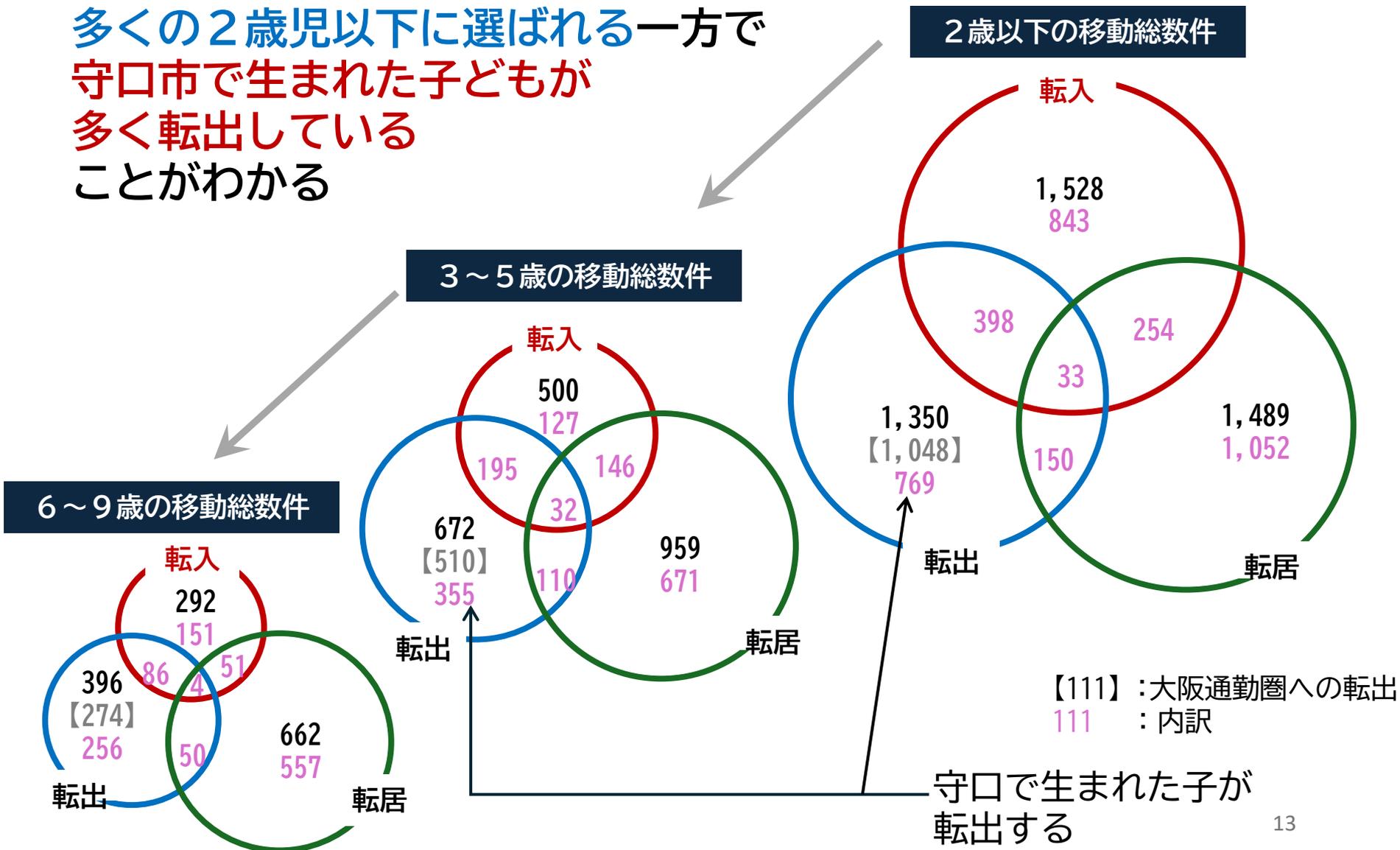
5歳

年度	移動件数			選択率		
	転居	転出 大阪 通勤圏	合計	転居	転出 大阪 通勤圏	合計
2020	65	28	93	69.9%	30.1%	100%
2021	63	46	109	57.8%	42.2%	100%
2022	66	47	113	58.4%	41.6%	100%
2023	67	42	109	61.5%	38.5%	100%
2024	76	30	106	71.7%	28.3%	100%
平均	67	39	106	63.6%	36.4%	100%
2022 ～ 2024	70	40	109	63.7%	36.3%	

➡ 5歳の2022～2024年度の
選択率平均は63.7%
に留まる。
但し2024年度単独では
71.7%に到達している。

【1】⑩ 転入・転居・転出の内訳

➡ 5年間の移動履歴からは、
多くの2歳児以下に選ばれる一方で
守口市で生まれた子どもが
多く転出している
ことがわかる



【1】⑪ 転居の履歴の状況

- ➔ 5年間で2回以上転居が転居の14%、「転入後転居」が7%。
- ➔ 9歳までのここ5年間の転居のうち、約8割は1度の転居。

転居 + 転居 転居の 14%													(件：1移動1件)
年度	未誕	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	総計	
2020	6	11	8	16	13	7	12	4	8	4	0	89	
2021	12	14	12	9	6	12	8	8	2	3	4	90	
2022	4	9	10	7	16	6	11	8	5	2	2	80	
2023	1	11	7	13	8	9	9	3	6	11	2	80	
2024	2	3	12	23	12	9	18	5	8	5	13	110	
合計	25	48	49	68	55	43	58	28	29	25	21	449	
構成比	6%	11%	11%	15%	12%	10%	13%	6%	6%	6%	5%	100%	

転入 + 転居 転入の 10% + 転居の 7%													※ 総数を1/2で算出 (件：1移動1件)
年度	未誕	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	合計	
2020	12	26	7	11	6	3	4	2	1	0	2	74	
2021	15	19	15	6	13	6	6	4	2	3	0	89	
2022	9	18	18	12	6	9	8	4	5	1	0	90	
2023	4	13	21	14	10	12	13	4	4	4	1	100	
2024	0	4	11	19	22	22	6	8	3	3	0	98	
合計	40	80	72	62	57	52	37	22	15	11	3	451	
構成比	9%	18%	16%	14%	13%	12%	8%	5%	3%	2%	1%	100%	

表中の「緑色」のセルは比較的大きな数値「転居が多い」、「赤色」のセルは比較的小さな数値「転居が少ない」を表しています。

【1】⑫ 転出の履歴の状況

- ➔ 5年間の転出のうち「転居後転出」は6%、「転入後転出」は14%
- ➔ 9歳までの5年間の転出のうち、約8割は初めての移動が転出。

転居+転出							転居の 5% + 転出の 6%						※ 総数を1/2で算出	(件：1移動1件)
年度	未誕	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	合計		
2020	4	14	12	20	9	8	9	5	2	1	0	84		
2021	4	9	8	3	8	2	11	2	5	0	1	53		
2022	4	8	4	10	4	5	11	3	4	0	1	54		
2023	4	8	12	11	7	9	6	6	1	2	4	70		
2024	0	2	6	7	4	10	7	2	6	3	2	49		
合計	16	41	42	51	32	34	44	18	18	6	8	310		
構成比	5%	13%	14%	16%	10%	11%	14%	6%	6%	2%	3%	100%		

転入+転出							転入の 15% + 転出の 14%						※ 総数を1/2で算出	(件：1移動1件)
年度	未誕	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	合計		
2020	28	32	28	12	8	4	4	4	5	1	0	126		
2021	11	25	29	23	17	6	12	4	3	3	3	136		
2022	13	26	32	23	13	11	11	10	3	3	2	147		
2023	4	15	25	29	20	21	22	5	6	7	4	158		
2024	4	8	13	18	15	17	14	8	4	5	6	112		
合計	60	106	127	105	73	59	63	31	21	19	15	679		
構成比	9%	16%	19%	15%	11%	9%	9%	5%	3%	3%	2%	100%		

表中の「赤色」のセルは比較的大きな数値（転出が多い）、「緑色」のセルは比較的小さな数値（転出が少ない）を表しています。

【1】⑬ 転入＋転出の内訳（全体679件の内訳）

➡ 「転入後に転出」したのは564件（83%）※ （※延べ移動数とその割合）
 その他に「転入後に転居して転出」するケースが62件（9%）※
 転入転出を繰り返すケースも見られる。

転入→転出 (件：1移動1件)

年度	未誕	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	合計
2020	23	24	25	12	5	4	3	4	5	1	0	106
2021	10	21	22	19	15	6	11	3	3	3	3	116
2022	11	24	28	19	11	7	8	8	3	3	2	124
2023	3	14	19	22	15	16	13	4	6	7	4	123
2024	4	7	13	15	12	13	10	7	3	5	6	95
合計	51	90	107	87	58	46	45	26	20	19	15	564
構成比	9%	16%	19%	15%	10%	8%	8%	5%	4%	3%	3%	100%

転入→転居→転出

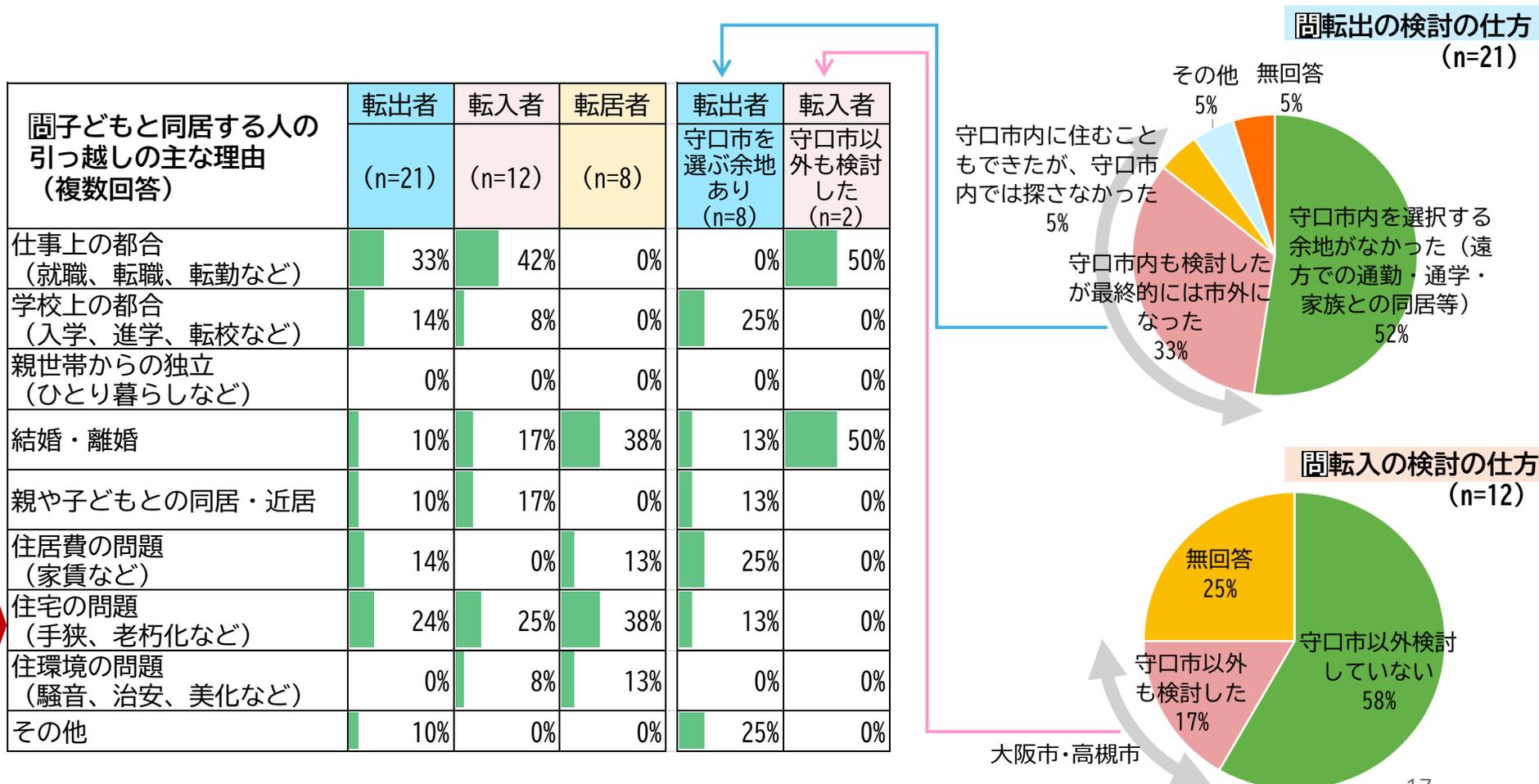
年度	未誕	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	合計
2020	3	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	8
2021	0	4	4	3	1	0	1	0	0	0	0	13
2022	0	2	2	3	1	3	1	2	0	0	0	14
2023	0	0	1	3	4	4	6	0	0	0	0	18
2024	0	0	0	0	3	2	2	1	1	0	0	9
合計	3	8	9	9	10	9	10	3	1	0	0	62
構成比	5%	13%	15%	15%	16%	15%	16%	5%	2%	0%	0%	100%

表中の「赤色」のセルは比較的大きな数値（転出が多い）、「緑色」のセルは比較的小さな数値（転居が少ない）を表しています。

【1】⑭ 引っ越し先の検討の現状

【参考値】該当者数 (n) が少ないため

➔ 「守口市内に住む可能性があるのに転出した」は4割。
引っ越しの理由は、「住宅の問題（手狭・老朽化）」が3割前後。



【1】⑮ 引っ越し先の検討の現状

【参考値】該当者数 (n) が少ないため

➡引っ越し先決定で考慮したことは、利便性と親の家に近いに加え、転出者は「治安が良い」、転入者は「子育て環境が良い」、転居者は「物価や住居費が安い」が多くみられる。

図 転出者の引っ越し先を決める際に考慮したこと	転出者	転入者	転居者	転出者	転入者
	(n=21)	(n=12)	(n=8)	守口市を選ぶ余地あり (n=8)	守口市以外も検討した (n=2)
通勤・通学が便利である	57%	33%	50%	50%	50%
鉄道やバス、道路等の交通が便利である	38%	25%	25%	38%	50%
買い物等、日常生活が便利である	38%	17%	50%	25%	50%
物価や住居費が安い	0%	17%	38%	0%	0%
医療施設が整っている	5%	8%	25%	0%	50%
まちが清潔である	19%	17%	0%	38%	50%
自然が豊かである	5%	17%	0%	13%	50%
治安が良い	33%	17%	13%	50%	50%
災害による被害が少ない	19%	8%	13%	38%	50%
子育て環境が良い（公園、遊び場など）	19%	33%	25%	13%	50%
子育てサービスが充実している	5%	17%	0%	13%	100%
学校などの教育環境が良い	10%	8%	0%	13%	50%
福祉施設・サービスが充実している	5%	0%	0%	13%	0%
地域コミュニティの活動が活発である	0%	0%	0%	0%	0%
まちのイメージがよい	10%	17%	13%	25%	50%
親や子どもの家に近い	29%	33%	38%	25%	50%
友人・知人がいる	10%	33%	13%	0%	50%
土地勘がある	10%	17%	50%	13%	50%

【1】⑯ 移動（引っ越し）の全体状況（まとめ）

子ども（0～9歳児）の転出入

2017年度頃から
0歳の転入数増加

【参考】

2017年度幼児教育・保育
の無償化開始

0歳児の転入は高い値を維持・転出も維持

2歳以降転出入に大きな違いはないが転出超過

市内転居選択率 上昇傾向

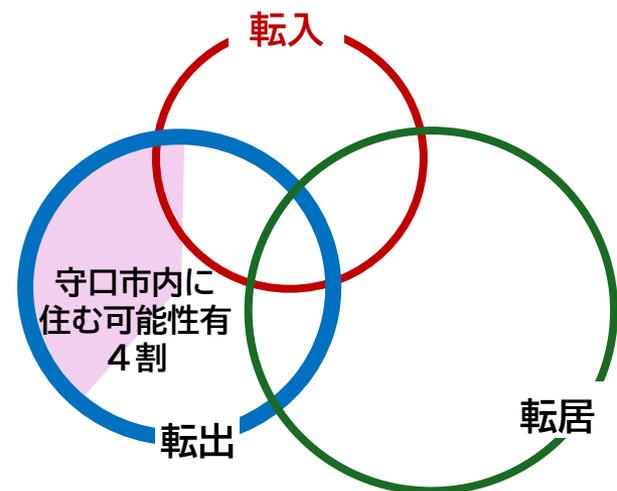
守口市は0歳児に選ばれており多くの転入がある。

しかし2歳以降は転入量より、転出量が勝る。



課題 守口で生まれた子どもの転出抑制

（引っ越し先選択で市内に留まる）



【2】① 転出入先の分析



転出入先分析
の視点



大阪通勤圏内での
転出入を分析

「大阪通勤圏」とは、
大阪市へ鉄道を用いて
概ね1時間で
通勤できるエリア
(具体的な市町村名は
21ページに掲載)

【2】② 転出入先の分析（地域区分）

	地域区分	市町村
1	北河内地域	枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四条畷市、交野市
2	大阪市地域	大阪市
3	三島地域	吹田市、高槻市、茨木市、摂津市、島本町
4	豊能地域	豊中市、池田市、箕面市、豊能町
5	堺市地域	堺市
6	中河内地域	八尾市、柏原市、東大阪市
7	その他大阪府	その他大阪府内市町村
8	阪神南地域	尼崎市、西宮市、芦屋市
9	阪神北地域	伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町
10	神戸地域	神戸市
11	兵庫県	明石市、播磨町、加古川市、姫路市、篠山市
	京都府	亀岡市、大山崎町、長岡京市、向日市、京都市、八幡市、宇治市、宇治田原町、城陽市、京田辺市、精華町、木津川市 井手町
	滋賀県	大津市、草津市、栗東市、守山市、野洲市
	奈良県	奈良市、生駒市、大和郡山市、平群町、三郷町、王寺町、香芝市、斑鳩町、河合町、田原本町、大和高田市、橿原市、桜井市 葛城市、天理市
	和歌山県	和歌山市、橋本市
	三重県	名張市
12	遠方	上記のその他

地域区分の
内訳
(12区分)

守口市との
転出入実績のない
市町村は
記載していない

【2】③ 転入元の全体状況（12地域別）

➡北河内地域と大阪市地域で約7割を占める（5年前と同じ傾向）

年度	北河内地域	大阪市地域	三島地域	豊能地域	堺市地域	中河内地域	その他大阪府	阪神南地域	阪神北地域	神戸地域	その他大阪通勤圏	遠方	合計
2020	128	188	28	5	6	11	16	5	4	1	8	64	464
2021	93	151	18	13	3	15	11	12	9	8	19	93	445
2022	110	145	33	4	7	10	11	8	2	5	30	79	444
2023	99	164	36	9	5	13	7	10	8	3	35	89	478
2024	112	158	29	7	9	17	8	13	4	8	24	100	489
合計	542	806	144	38	30	66	53	48	27	25	116	425	2,320
構成比	23%	35%	6%	2%	1%	3%	2%	2%	1%	1%	5%	18%	100%
合計 大阪 通勤圏	542	806	144	38	30	66	53	48	27	25	116		1,895
構成比	29%	43%	8%	2%	2%	3%	3%	3%	1%	1%	6%		100%

表中の「緑色」のセルは比較的大きな数値（転入が多い）、「赤色」のセルは比較的小さな数値（転入が少ない）を表しています。

【2】④ 転出先の全体状況（12地域別）

➡北河内地域と大阪市地域で約6割を占める

（5年前と同じ傾向）

年度	北河内地域	大阪市地域	三島地域	豊能地域	堺市地域	中河内地域	その他大阪府	阪神南地域	阪神北地域	神戸地域	その他大阪通勤圏	遠方	合計
2020	139	101	28	13	11	16	11	9	7	7	40	99	481
2021	156	75	52	21	10	19	29	13	8	7	39	122	551
2022	119	101	35	17	9	24	14	6	3	6	30	99	463
2023	136	82	21	20	16	15	13	8	2	9	42	150	514
2024	102	77	16	15	5	20	18	10	1	5	39	126	434
合計	652	436	152	86	51	94	85	46	21	34	190	596	2,443
構成比	27%	18%	6%	4%	2%	4%	3%	2%	1%	1%	8%	24%	100%
合計 大阪 通勤圏	652	436	152	86	51	94	85	46	21	34	190		1,847
構成比	35%	24%	8%	5%	3%	5%	5%	2%	1%	2%	10%		100%

表中の「赤色」のセルは比較的大きな数値（転出が多い）、「緑色」のセルは比較的小さな数値（転出が少ない）を表しています。

【2】⑤ 転出入差の全体状況（12地域別）

➡大阪市地域 継続して転入超過。
北河内地域 2023年度に転出超過が続いたが2024年度は転入超過。

年度	北河内地域	大阪市地域	三島地域	豊能地域	堺市地域	中河内地域	その他大阪府	阪神南地域	阪神北地域	神戸地域	その他大阪通勤圏	遠方	合計
2020	-11	87	0	-8	-5	-5	5	-4	-3	-6	-32	-35	-17
2021	-63	76	-34	-8	-7	-4	-18	-1	1	1	-20	-29	-106
2022	-9	44	-2	-13	-2	-14	-3	2	-1	-1	0	-20	-19
2023	-37	82	15	-11	-11	-2	-6	2	6	-6	-7	-61	-36
2024	10	81	13	-8	4	-3	-10	3	3	3	-15	-26	55
合計	-110	370	-8	-48	-21	-28	-32	2	6	-9	-74	-171	-123

表中の「緑色」のセルは比較的大きな数値（転入超過が多い）、「赤色」のセルは比較的小さな数値（転出超過が多い）を表しています。

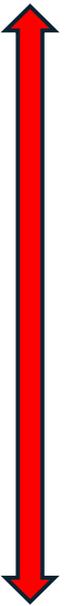
【2】⑥ 転出入差の全体状況（年齢別・12地域別）

- 0歳以下：特に大阪市地域の0歳以下に選ばれている
 1～9歳：2歳以上が転出超過（北河内地域への転出超過が大）

年齢	北河内地域	大阪市地域	三島地域	豊能地域	堺市地域	中河内地域	その他大阪府	阪神南地域	阪神北地域	神戸地域	その他大阪通勤圏	遠方	合計
未誕	15	88	6	-8	-1	4	0	-1	1	2	-6	14	114
0歳	-9	158	-2	-5	-5	6	3	2	2	0	-1	-19	130
1歳	-30	53	-2	3	-5	-3	-7	4	-1	-2	-14	-5	-9
2歳	-17	27	-13	-8	-3	-5	0	-1	3	-2	-9	-29	-57
3歳	-8	9	3	-6	-3	-7	-9	0	0	-2	-9	-33	-65
4歳	-15	-11	7	-4	-1	-4	-7	1	-1	-4	-5	-24	-68
5歳	-11	18	-3	-11	-3	-2	-5	0	-1	1	-14	-8	-39
6歳	-7	4	-1	-2	0	-10	-2	-4	2	-1	3	-20	-38
7歳	-9	12	3	0	2	-1	0	4	1	0	-8	-15	-11
8歳	-6	8	-2	-3	-1	-2	-4	-2	0	0	0	-10	-22
9歳	-13	6	-2	-2	0	-2	-1	-1	0	-1	-5	-12	-33
総計	-110	372	-6	-46	-20	-26	-32	2	6	-9	-68	-161	-98

表中の「緑色」のセルは比較的大きな数値（転入超過が多い）、「赤色」のセルは比較的小さな数値（転出超過が多い）を表しています。

転出入差はすべての2020～2024年度の合計



【2】⑦ 転出入の多い自治体（年齢別転出入差の状況）

- ➡寝屋川市は未誕と6歳を除くすべての年齢で転出超過
- 枚方市は6歳以下は転出超過
- 門真市・旭区・城東区は転入超過

	未誕	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	総計	転入数
寝屋川市	2	-17	-19	-9	-8	-5	-12	0	-6	-9	-4	-87	139
門真市	21	31	7	14	7	2	2	5	1	2	-7	85	298
枚方市	-3	-17	-14	-21	-6	-9	-2	-11	0	0	1	-82	47
大阪市旭区	24	29	7	3	-2	-4	-3	0	0	0	2	56	179
東大阪市	6	7	-6	-3	-5	0	-1	-6	0	-1	-2	-11	49
吹田市	0	2	-1	-5	1	-1	-5	1	0	0	-2	-10	42
大阪市鶴見区	7	9	4	3	-1	-5	3	0	1	-1	-3	17	70
堺市	-1	-5	-5	-3	-3	-1	-3	0	2	-1	0	-20	30
大阪市城東区	13	17	9	1	1	2	6	3	3	2	6	63	109
豊中市	0	-3	7	-3	-2	1	-5	0	0	-3	-1	-9	34
転出入差	69	53	-11	-23	-18	-20	-20	-8	1	-11	-10	2	

上位10の状況：転出入差はすべての都市を合計した数 2020～2024年度の合計

【2】⑧ 転出入先の全体状況（まとめ）

子ども（0～9歳児）大阪通勤圏での転出入

0歳未満：大阪市・北河内・三島地域とも転入超過
 1～9歳：大阪市・阪神南・阪神北地域以外転出超過
 大阪市地域：4歳除き転入超過 ➡（大阪市子育て層から選ばれる）

■ 5年前の課題

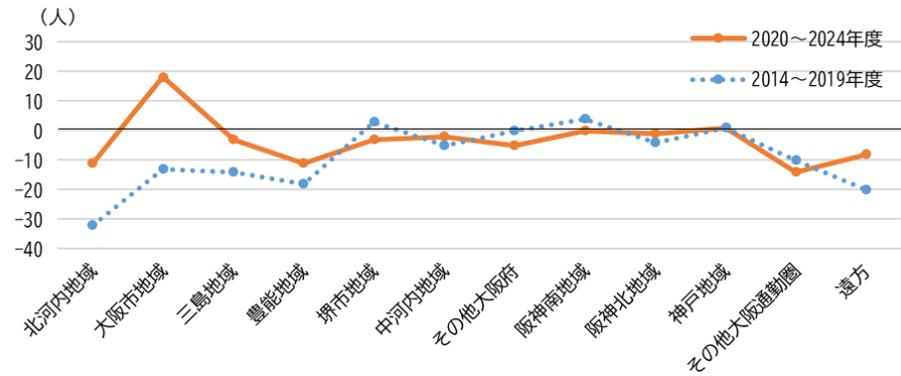
5歳児が**多くの地域で転出超過**
 ➡**改善傾向が見られる。**



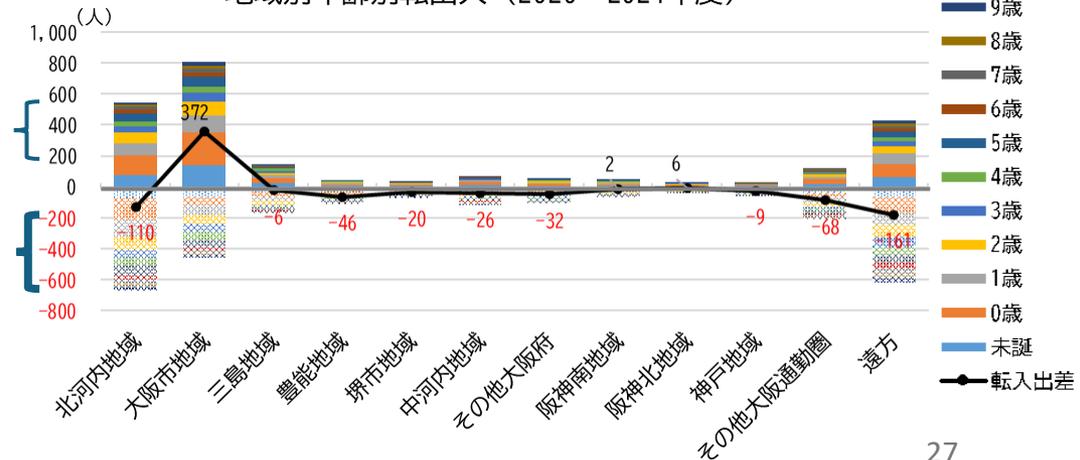
■ 現在の課題

2歳以降が転出超過
 ➡**大阪市地域以外でみられる**
1歳以降の転出増加を防ぐ

5歳の地域別転出入の比較



地域別年齢別転出入（2020～2024年度）



【2】（参考）転入者の多い自治体

	未誕	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	総計	累計 比率
門真市	36	70	47	36	22	19	29	15	9	9	6	298	13%
大阪市旭区	34	45	24	21	14	12	14	5	2	1	7	179	21%
寝屋川市	21	35	14	21	9	8	14	7	4	1	5	139	27%
大阪市城東区	15	28	15	12	6	5	10	4	4	4	6	109	31%
大阪市鶴見区	12	14	13	8	4	4	9	2	1	2	1	70	34%
東大阪市	11	16	5	3	1	3	5	1	2	1	1	49	36%
枚方市	10	12	8	1	5	2	6	0	0	1	2	47	38%
摂津市	8	7	3	6	5	6	4	2	1	0	3	45	40%
吹田市	4	13	7	5	3	2	2	3	2	1	0	42	42%
豊中市	3	9	13	3	1	3	2	0	0	0	0	34	44%

【2】（参考）転出者の多い自治体

	未誕	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	総計	累計 比率
寝屋川市	19	52	33	30	17	13	26	7	10	10	9	226	9%
門真市	15	39	40	22	15	17	27	10	8	7	13	213	18%
枚方市	13	29	22	22	11	11	8	11	0	1	1	129	23%
大阪市旭区	10	16	17	18	16	16	17	5	2	1	5	123	29%
東大阪市	5	9	11	6	6	3	6	7	2	2	3	60	31%
大阪市鶴見区	5	5	9	5	5	9	6	2	0	3	4	53	33%
吹田市	4	11	8	10	2	3	7	2	2	1	2	52	35%
堺市	6	14	8	8	4	3	3	2	0	1	1	50	37%
大阪市城東区	2	11	6	11	5	3	4	1	1	2	0	46	39%
豊中市	3	12	6	6	3	2	7	0	0	3	1	43	41%

【3】① 市内転居の分析

東部地域	佐太小、金田小、よつば小、藤田小、 梶小、庭窪小、八雲東小
中部地域	八雲小、守口小 ■守口小／さつき学園／太子橋小 ■守口小／さつき学園
南部地域	さつき学園、さくら小、錦小、寺方南小 ■さくら小／寺方南小 ■さつき学園／太子橋小

市内転居分析 の視点



3地域を基本として 転居を分析

必要に応じて、17エリアで分析
(通学する小学校を複数校
から選択できるエリアが
4つあり、17エリアを設定)
(左表の赤色文字)

【3】② 転居・転入の状況（3地区別）

2020-2024年 転居・転入 実数		前住所					転入 大阪 通勤圏	合計
		転居	東部地区	中部地区	南部地区			
			東部地区	中部地区	南部地区			
移動 後住 所	東部地区	1,348	1,169	83	96	870	2,218	
	中部地区	676	58	526	92	315	991	
	南部地区	1,086	88	149	849	710	1,796	
	総計	3,110	1,315	758	1,037	1,895	5,005	

どこから3地区へ 引っ越してきたか 構成比		前住所					転入 大阪 通勤圏	合計
		転居	東部地区	中部地区	南部地区			
			東部地区	中部地区	南部地区			
移動 後住 所	東部地区	61%	53%	4%	4%	39%	100%	
	中部地区	68%	6%	53%	9%	32%	100%	
	南部地区	60%	5%	8%	47%	40%	100%	
	総計	62%	26%	15%	21%	38%	100%	

3地区のどこへ 引っ越したか 構成比		前住所					転入 大阪 通勤圏	合計
		転居	東部地区	中部地区	南部地区			
			東部地区	中部地区	南部地区			
移動 後住 所	東部地区	43%	89%	11%	9%	46%	44%	
	中部地区	22%	4%	69%	9%	17%	20%	
	南部地区	35%	7%	20%	82%	37%	36%	
	総計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	

➡引っ越してきた人は
転居は6割
同じ地区が5割
その他市内1割
大阪通勤圏からは4割

➡大阪通勤圏からの転入は
東部へ5割弱
中部へ2割弱
南部へ4割弱

【3】③ 転居・転入の引っ越し先（大阪通勤圏11地域）

- ➡大阪市地域外からの転入先は東部地区が多い
- ➡転入者の43%が大阪市地域からで、南部地区が多い
- ➡転居は同地区内を選ぶ市民が多い

転居前

転入前

	前居住地（転居）				転入前居住地（大阪通勤圏）												合計	
	東部地区	中部地区	南部地区	合計	北河内地域	大阪市地域	三島地域	豊能地域	堺市地域	中河内地域	その他大阪府	阪神南地域	阪神北地域	神戸地域	その他大阪通勤圏	大阪通勤圏計		
転居後	東部地区	1,169	83	96	1,348	334	274	78	20	12	35	29	15	15	14	44	870	2,218
	中部地区	58	526	92	676	46	169	19	5	6	9	8	11	8	5	29	315	991
	南部地区	88	149	849	1,086	162	363	47	13	12	22	16	22	4	6	43	710	1,796
	総計	1,315	758	1,037	3,110	542	806	144	38	30	66	53	48	27	25	116	1,895	5,005
構成比	42%	24%	33%	100%	29%	43%	8%	2%	2%	3%	3%	3%	1%	1%	6%	100%		

構成比	前居住地（転居）				転入前居住地（大阪通勤圏）												合計	
	東部地区	中部地区	南部地区	合計	北河内地域	大阪市地域	三島地域	豊能地域	堺市地域	中河内地域	その他大阪府	阪神南地域	阪神北地域	神戸地域	その他大阪通勤圏	大阪通勤圏計		
転居後	東部地区	89%	11%	9%	43%	62%	34%	54%	53%	40%	53%	55%	31%	56%	56%	38%	46%	44%
	中部地区	4%	69%	9%	22%	8%	21%	13%	13%	20%	14%	15%	23%	30%	20%	25%	17%	20%
	南部地区	7%	20%	82%	35%	30%	45%	33%	34%	40%	33%	30%	46%	15%	24%	37%	37%	36%
	総計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表中の「緑色」のセルは比較的大きな数値（3地域の中で選ばれた割合が高い）、「赤色」のセルは比較的小さな数値（3地域の中で選ばれた割合が低い）を表しています。

【3】④ 転居・転入の引っ越し先（大阪通勤圏11地域の変化）

➡2020-2022年度と2023-2024年度の転入・転居の変化は
北河内地域とその他の大阪府のみ減少傾向
市内転居数は、東部・南部から若干減少、中部から若干増加

2020-2022年度

	前居住地（転居）				転入前居住地（大阪通勤圏）												合計
	東部地区	中部地区	南部地区	合計	北河内地域	大阪市地域	三島地域	豊能地域	堺市地域	中河内地域	その他大阪府	阪神南地域	阪神北地域	神戸地域	その他大阪通勤圏	大阪通勤圏計	
東部地区	722	51	59	832	208	155	38	10	8	21	21	10	8	6	22	507	1,339
中部地区	28	315	59	402	26	112	11	3	1	4	8	8	5	4	15	197	599
南部地区	54	81	510	645	97	217	30	9	7	11	9	7	2	4	20	413	1,058
	804	447	628	1,879	331	484	79	22	16	36	38	25	15	14	57	1,117	2,996

2023-2024年度



	前居住地（転居）				転入前居住地（大阪通勤圏）												合計
	東部地区	中部地区	南部地区	合計	北河内地域	大阪市地域	三島地域	豊能地域	堺市地域	中河内地域	その他大阪府	阪神南地域	阪神北地域	神戸地域	その他大阪通勤圏	大阪通勤圏計	
東部地区	447	32	37	516	126	119	40	10	4	14	8	5	7	8	22	363	879
中部地区	30	211	33	274	20	57	8	2	5	5		3	3	1	14	118	392
南部地区	34	68	339	441	65	146	17	4	5	11	7	15	2	2	23	297	738
	511	311	409	1,231	211	322	65	16	14	30	15	23	12	11	59	778	2,009
差	-13	7	-5	-11	-5	-0	6	1	2	3	-5	3	1	1	11	17	6

「差」は、2023～2024年度の年平均移動数から2020～2022年度の年平均移動数を引いた値です。

【3】⑤ 転居・転入の引っ越し先（大阪通勤圏11地域と小学校区別）

➡市外からの転入者が多いのは、よつば小、さくら小、寺方南小
北河内地域はよつば小へ、大阪市地域は寺方南小への転入が多い

		前居住地（転居）				転入前居住地（大阪通勤圏）											合計	
		東部 地区	中部 地区	南部 地区	合計	北河内 地域	大阪市 地域	三島地 域	豊能地 域	堺市地 域	中河内 地域	その他 大阪府	阪神南 地域	阪神北 地域	神戸地 域	その他大 阪通勤圏		大阪 通勤圏 計
東部 地区	よつば小	372	15	28	415	127	69	16	4	4	15	4	2	4	4	15	264	679
	梶小	181	25	13	219	43	62	16		1	10	5	4		3	9	153	372
	金田小	169	9	9	187	39	31	15	4	1	2	5	3	3	2	4	109	296
	佐太小	73	6	9	88	17	12	5	3	4	2	3	3	1		4	54	142
	庭窪小	95	9	12	116	23	29	8	1	1		1	1	2		5	71	187
	藤田小	194	9	15	218	63	37	15	5		2	11	2	5	3	7	150	368
	八雲東小	85	10	10	105	22	34	3	3	1	4				2		69	174
中部 地区	守口小	16	224	37	277	13	64	5	2	2	3	1	4	3	2	14	113	390
	八雲小	37	257	23	317	24	75	13	2	3	6	5	4	3	2	15	152	469
	守口小・さつき学園	5	39	30	74	9	29	1	1	1		2	3	2	1		49	123
	守口小・さつき学園・太子橋小		6	2	8		1										1	9
南部 地区	さくら小	40	52	319	411	86	102	21	6	2	7	6	7		2	9	248	659
	さつき学園	11	50	100	161	16	63	10	1	5	1	4	2	3		9	114	275
	錦小	15	7	161	183	26	75	6	5	1	6	3	6		2	13	143	326
	寺方南小	22	38	260	320	32	121	8	1	4	8	3	7	1	2	11	198	518
	さくら小・寺方南小		2	9	11	2	2	2								1	7	18
	さつき学園・太子橋小				0												0	0
総計		1,315	758	1,037	3,110	542	806	144	38	30	66	53	48	27	25	116	1,895	5,005

【3】⑥ 転居・転入の引っ越し先変化（大阪通勤圏と小学校区別）

2023～2024年度の年平均移動数－2020～2022年度の年平均移動数

		移動前住居				大阪通勤圏計	合計
		前居住地（転居）					
		東部地区	中部地区	南部地区	合計		
東部地区	よつば小	-7	2	-0	-5	5	-1
	梶小	4	0	-1	3	5	8
	金田小	-6	-1	-2	-10	-1	-10
	佐太小	-4	-1	-1	-7	4	-3
	庭窪小	-3	-1	0	-3	-5	-8
	藤田小	-3	2	3	2	9	11
	八雲東小	2	-2	1	1	-4	-3
中部地区	守口小	1	10	2	14	-4	9
	八雲小	4	-7	2	-1	-1	-1
	守口小・さつき学園	1	-4	-7	-10	-1	-11
	守口小・さつき学園・太子橋小	0	1	-1	-0	-0	-1
南部地区	さくら小	-7	5	21	20	2	22
	さつき学園	1	3	-17	-13	-2	-15
	錦小	-2	0	-6	-8	11	3
	寺方南小	7	-1	1	7	-0	7
	さくら小・寺方南小	0	-1	0	-0	0	-0
	さつき学園・太子橋小	0	0	0	0	0	0
総計		-13	7	-5	-11	17	6

2023～2024年度年平均移動数
－ 2020～2022年度年平均移動数

大阪通勤圏からの転入が減少※
➡庭窪小

大阪通勤圏からの転入が増加※
➡錦小、藤田小、よつば小、梶小

自地区内転居が増加※
➡さくら小、守口小

自地区内転居が減少※
➡よつば小、金田小、八雲小
さつき学園、錦小、

※平均5人以上抽出

【3】⑦ 転居・転出の引っ越し先変化（大阪通勤圏と3地区）

2020-2024年度

転居・転出
実数

	転居	現住地			大阪 通勤圏 計	合計
		東部地区	中部地区	南部地区		
移動前住居	東部地区	1,315	1,169	58	88	2,163
	中部地区	758	83	526	149	387
	南部地区	1,037	96	92	849	597
	総計	3,110	1,348	676	1,086	1832

どこへ引っ越ししたか
 ➡同地区が約5割
 ➡大阪通勤圏へは
 いずれも3~4割

3地区からどこへ
引っ越ししたか
構成比

	転居	現住地			大阪 通勤圏 計	合計
		東部地区	中部地区	南部地区		
移動前住居	東部地区	61%	54%	3%	4%	39%
	中部地区	66%	7%	46%	13%	34%
	南部地区	63%	6%	6%	52%	37%
	総計	63%	27%	14%	22%	37%

大阪通勤圏への引っ越しは
 ➡東部地区から約5割
 中部地区から約2割
 南部地区から約3割

3地区のどこから
引っ越ししたか
構成比

	転居	現住地			大阪 通勤圏 計	合計
		東部地区	中部地区	南部地区		
移動前住居	東部地区	42%	87%	9%	8%	46%
	中部地区	24%	6%	78%	14%	21%
	南部地区	33%	7%	14%	78%	33%
	総計	100%	100%	100%	100%	100%

表中の数字は構成比であるため、表示の数字の和が一致しない場合があります。

【3】⑧ 転居・転出引っ越し先変化（大阪通勤圏11地区と3地区）

- ➡北河内地域への転出が36%を占め、特に東部からの移動が多い
- ➡大阪市地域への転出は南部地域からが多い

2020-2024年度	現住地（転居）				現住地（転出（大阪通勤圏））													合計
	東部地区	中部地区	南部地区	合計	北河内地域	大阪市地域	三島地域	豊能地域	堺市地域	中河内地域	その他大阪府	阪神南地域	阪神北地域	神戸地域	その他大阪通勤圏	大阪通勤圏計		
東部地区	1,169	58	88	1,315	375	149	71	34	23	34	39	25	11	14	73	848	2,163	
中部地区	83	526	149	758	112	105	31	27	10	10	19	11	4	6	52	387	1,145	
南部地区	96	92	849	1,037	165	180	48	23	17	48	27	10	6	14	59	597	1,634	
総計	1,348	676	1,086	3,110	652	434	150	84	50	92	85	46	21	34	184	1832	4,942	
構成比	43%	22%	35%	100%	36%	24%	8%	5%	3%	5%	5%	3%	1%	2%	10%	100%		

構成比	現住地（転居）				現住地（転出（大阪通勤圏））													合計
	東部地区	中部地区	南部地区	合計	北河内地域	大阪市地域	三島地域	豊能地域	堺市地域	中河内地域	その他大阪府	阪神南地域	阪神北地域	神戸地域	その他大阪通勤圏	大阪通勤圏計		
東部地区	87%	9%	8%	42%	58%	34%	47%	40%	46%	37%	46%	54%	52%	41%	40%	46%	44%	
中部地区	6%	78%	14%	24%	17%	24%	21%	32%	20%	11%	22%	24%	19%	18%	28%	21%	23%	
南部地区	7%	14%	78%	33%	25%	41%	32%	27%	34%	52%	32%	22%	29%	41%	32%	33%	33%	
総計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	

表中の「赤色」のセルは比較的大きな数値（転出が多い）、「緑色」のセルは比較的小さな数値（転出が少ない）を表しています。

【3】⑨転居・転出の引っ越し先変化（大阪通勤圏11地区と3地区）

➡2020-2022年度と2023-2024年度の転居・転出の変化は、市内転居は、東部地区への引っ越しが減少。北河内地域、大阪市地域、三島地域への転出数は縮小。

移動前住所	2020-2022年度				2023-2024年度													合計
	現住地（転居）				現住地（転出（大阪通勤圏）													
	東部地区	中部地区	南部地区	合計	北河内地域	大阪市地域	三島地域	豊能地域	堺市地域	中河内地域	その他大阪府	阪神南地域	阪神北地域	神戸地域	その他大阪通勤圏	大阪通勤圏計		
東部地区	722	28	54	804	241	92	53	22	16	17	26	14	8	7	40	536	1,340	
中部地区	51	315	81	447	69	64	23	14	5	9	11	7	4	5	29	240	687	
南部地区	59	59	510	628	104	119	38	14	8	33	17	7	6	8	36	390	1,018	
総計	832	402	645	1,879	414	275	114	50	29	59	54	28	18	20	105	1166	3,045	



移動前住所	2020-2022年度				2023-2024年度													合計
	現住地（転居）				現住地（転出（大阪通勤圏）													
	東部地区	中部地区	南部地区	合計	北河内地域	大阪市地域	三島地域	豊能地域	堺市地域	中河内地域	その他大阪府	阪神南地域	阪神北地域	神戸地域	その他大阪通勤圏	大阪通勤圏計		
東部地区	447	30	34	511	134	57	18	12	7	17	13	11	3	7	33	312	823	
中部地区	32	211	68	311	43	41	8	13	5	1	8	4		1	23	147	458	
南部地区	37	33	339	409	61	61	10	9	9	15	10	3		6	23	207	616	
総計	516	274	441	1,231	238	159	36	34	21	33	31	18	3	14	79	666	1,897	

差	-19	3	6	-11	-19	-12	-20	0	1	-3	-3	-0	-5	0	5	-56	-67
---	-----	---	---	-----	-----	-----	-----	---	---	----	----	----	----	---	---	-----	-----

表中の差は、2023-2024年度の移動数から2020-2022年度の移動数を1年平均にして引いた値です。

【3】⑩ 転居・転出の引っ越し先（大阪通勤圏11地域と小学校区）

➡ よつば、守口、八雲、さくら、寺方南小は、転居・転出が多い。
北河内地域への転出者数の2割をよつば小学校が占める。

		現住地（転居）				現住地（転出（大阪通勤圏）											合計		
		東部地区	中部地区	南部地区	合計	北河内地域	大阪市地域	三島地域	豊能地域	堺市地域	中河内地域	その他大阪府	阪神南地域	阪神北地域	神戸地域	その他大阪通勤圏		大阪通勤圏計	
移動 前住所	東部地区	よつば小	333	2	15	350	122	30	21	3	4	8	9	5	2	5	17	226	576
		梶小	214	8	9	231	58	25	11	3	5	3	7	5	1	4	10	132	363
		金田小	127	6	10	143	27	13	6	6	3	1	1	1	1			59	202
		佐太小	65	7	13	85	38	16	2	3	3	4	10	4			4	84	169
		庭窪小	180	14	19	213	42	31	19	8	5	10	5	4	2	3	19	148	361
		藤田小	178	7	8	193	49	13	4	4	2	1	4	1	3		9	90	283
		八雲東小	72	14	14	100	39	21	8	7	1	7	3	5	2	2	14	109	209
	中部地区	守口小	32	222	94	348	50	43	12	10	6	7	6	2	1	3	31	171	519
		八雲小	46	260	29	335	49	46	16	14	4	2	13	4	2	3	20	173	508
		守口小・さつき学園	5	39	25	69	13	14	2	3		1		5	1		1	40	109
		守口小・さつき学園・太子橋小		5	1	6		2	1										3
	南部地区	さくら小	26	31	294	351	63	20	14	6	8	8	7	1	1	2	18	148	499
		さつき学園	12	40	107	159						1				2		3	162
		錦小	27	7	218	252	20	42	9	6	2	12	2		1		14	108	360
		寺方南小	30	14	221	265	54	46	9	5	4	22	8	9	4		17	178	443
		さくら小・寺方南小	1		8	9	27	71	16	6	3	5	10			10	10	158	167
		さつき学園・太子橋小			1	1	1	1										2	3
		総計	1,348	676	1,086	3,110	652	434	150	84	50	92	85	46	21	34	184	1,832	4,942

表中の差は、2023-2024年度の移動数から2020-2022年度の移動数を1年平均にして引いた値です。

【3】⑪ 転居・転出の引っ越し先変化（大阪通勤圏と小学校区別）

2023～2024年度と2020～2022年度の変化の比較

転居・転出後

		前居住地（転居）				大阪通勤圏計	合計
		東部地区	中部地区	南部地区	合計		
東部地区	よつば小	-7	0	0	-7	-6	-13
	梶小	-6	2	-1	-6	-11	-17
	金田小	-5	-0	-3	-8	-5	-12
	佐太小	-6	2	2	-3	-7	-10
	庭窪小	5	3	-1	7	-2	5
	藤田小	7	-2	2	7	1	8
	八雲東小	-6	1	1	-3	7	4
中部地区	守口小	3	-2	7	8	1	9
	八雲小	-2	-3	-2	-8	-5	-13
	守口小・さつき学園	-2	3	3	4	-2	2
	守口小・さつき学園・太子橋小	0	3	-0	2	-0	2
	さくら小	-2	2	28	28	-3	25
南部地区	さつき学園	-1	-3	-10	-14	-23	-37
	錦小	-2	-1	-16	-19	-23	-42
	寺方南小	4	-1	-5	-2	-6	-8
	さくら小・寺方南小	-0	0	2	1	28	29
	さつき学園・太子橋小	0	0	1	1	1	1
	総計	-19	3	6	-11	-56	-67

2023～2024年度年平均移動数
- 2020～2022年度年平均移動数

大阪通勤圏への転出が減少※
➡ さつき学園、錦小、梶小、佐太小、よつば小、金田小
大阪通勤圏への転出が増加※
➡ 八雲東小

※平均5人以上抽出

自地区内転居が増加
➡ さくら小

自地区内転居が減少
➡ さつき学園、錦小

移動前住居

表中の数字は平均のため、表示の数字の和が一致しない場合があります。

【3】⑫ 転居の引っ越し先（小学校区別）

➡ 転居は、同じ校区を選択する傾向が見られる

転居後校区 転居前校区		東部地区							中部地区				南部地区				合計		
		よつば小	梶小	金田小	佐太小	庭窪小	藤田小	八雲東小	守口小	八雲小	守口小・さつき学園	守口小・さつき学園・太子橋小	さくら小	さつき学園	錦小	寺方南小		さくら小・寺方南小	さつき学園・太子橋小
東部地区	よつば小	262	10	20	1	4	35	1		1	1		6	1	3	5			350
	梶小	23	101	17	7	12	41	13	4	3	1		9						231
	金田小	18	8	85	4	4	8			6			3	2	3	2			143
	佐太小	2	3	7	39	6	7	1		7			4	1	3	5			85
	庭窪小	10	32	19	14	64	16	25	6	8			7	7	1	4			213
	藤田小	51	22	17	4	1	83		1	6			4		4				193
	八雲東小	6	5	4	4	4	4	45	5	6	3		7		1	6			100
中部地区	守口小	8	11	3	1	2	5	2	158	47	15	2	37	32	3	20	2		348
	八雲小	5	13	5	5	7	4	7	50	203	5	2	9	4	4	12			335
	守口小・さつき学園	2	1	1				1	12	7	19	1	5	14		6			69
	守口小・さつき学園・太子橋小								4			1	1						6
南部地区	さくら小	9	5	1	3	1	5	2	19	2	9	1	212	14	22	41	5		351
	さつき学園	3	4		1	1	2	1	10	13	17		24	62	1	20			159
	錦小	7	4	1	4	4	6	1	4	3			38	8	120	51	1		252
	寺方南小	9		6	1	6	2	6	4	5	4	1	44	16	17	141	3		265
	さくら小・寺方南小			1									1			7			9
	さつき学園・太子橋小														1				1
総計		415	219	187	88	116	218	105	277	317	74	8	411	161	183	320	11		3,110

【3】⑬ 転出転入・転居の状況（まとめ）

移動先の特徴

市内転居

同じ地区内・校区内での転居が多い

転入者

よつば小、さくら小、寺方南小が多い

北河内、三島地域 ➡ 東部地区への転入が多い

大阪市地域 ➡ 南部地区への転入が多い

市外に転出する
住民が多いのは
東部地区（46%）

転出入件数
の特徴
（大阪通勤圏内）

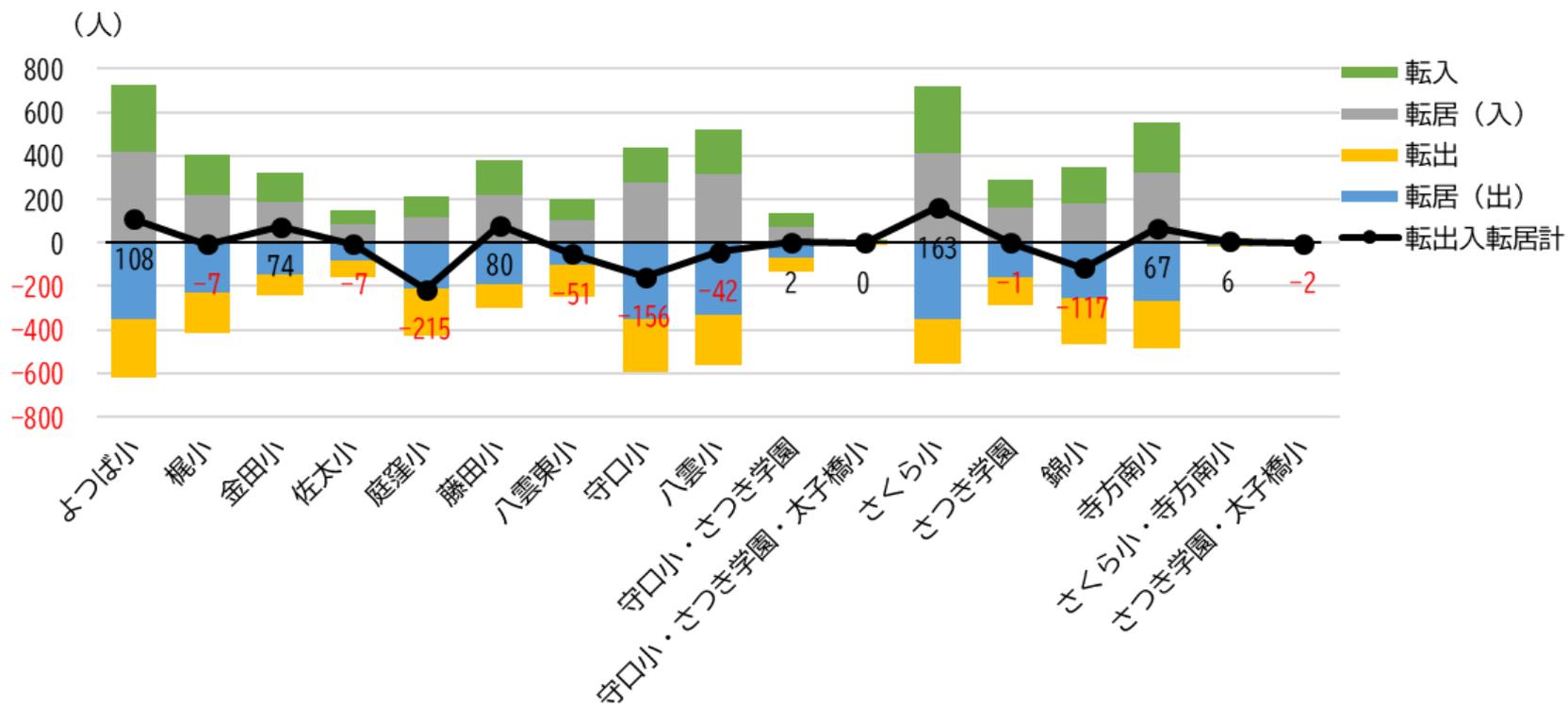
転出は
北河内地域が最も多く（36%）、
次いで大阪市（24%）。

転入は
大阪市が最も多く（43%）
次いで北河内地域（29%）

【4】①転居・転出入の統合分析（校区別）

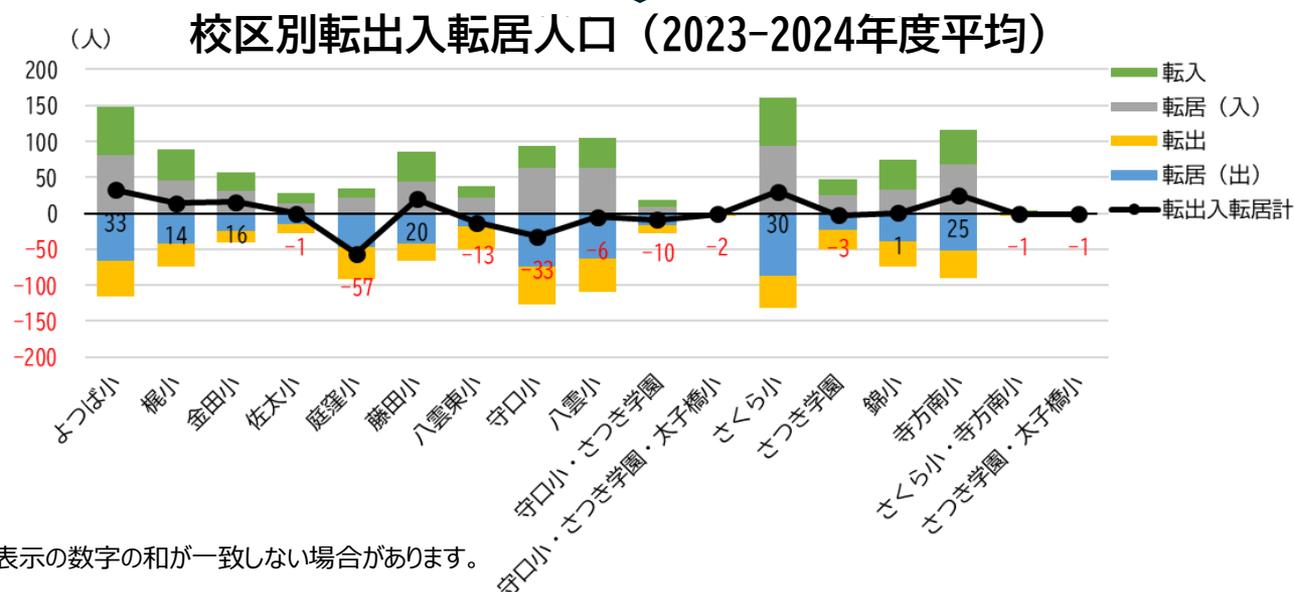
- ➡ **よつば小、さくら小、金田小、寺方南小、藤田小** は、転入転居（入）が50人以上超過
- ➡ **庭窪小、守口小、錦小、八雲東小** は、転出転居（出）が50人以上超過

校区別転居・転出入人口（2020-2024年度）



【4】②転居・転出入の統合分析（校区別変化）

➔ 2期間とも程同様の傾向、転出超過傾向は庭窪小、守口小。さくら小のみ2023-2024年度に転居者数（入）増加



表中の数字は平均のため、表示の数字の和が一致しない場合があります。

【4】③ 転居・転出入（大阪通勤圏）の統合分析

子ども（0～9歳児）2020-2024年度について、市内転居 × 大阪通勤圏での転出入で整理

➡よつば小、金田小、藤田小、さくら小、寺方南小が転出入や転居で、最も選ばれている

➡庭窪小、守口小は、選ばれにくくなっている

転出入状況をもとに17エリアを分類

		市外転出入（大阪通勤圏）		
		減少 (20人以上減少)	増減少ない	増加 (20人以上増加)
市内転出入 (転居)	増加 (20人以上増加)			よつば小 金田小 藤田小 さくら小 寺方南小
	増減少ない	佐太小 八雲東小 八雲小 さくら小・寺方南小	守口小・さつき学園 守口小・さつき学園・ 太子橋小 さつき学園・太子橋小	梶小 さつき学園
	減少 (20人以上減少)	庭窪小 守口小		錦小

統合分析の視点
転居を
市内転入と
市内転出に分類

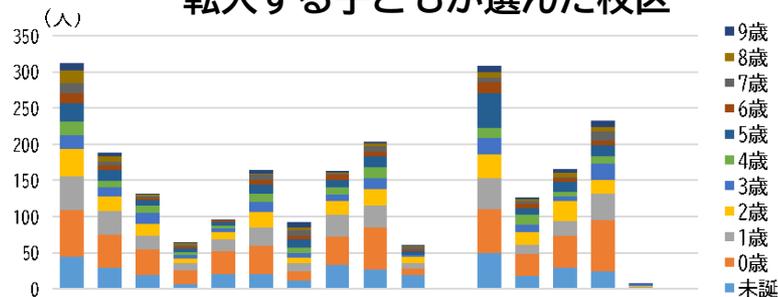
市内転出入
市外転出入
の2軸で分析

【4】④ 転居・転出の統合分析（小学校区別引っ越し先）

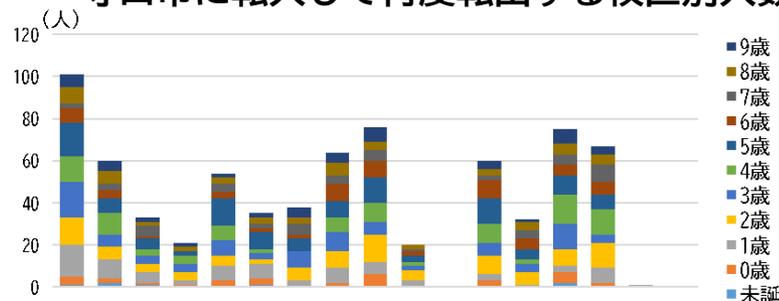
➡よつば小とさくら小は、転入者が多い地区。
転入者が再度転出するケースはよつば小に多くみられる。

➡守口市で生まれた子どもの転出が最も多くみられるのが守口小。
他の校区でも0歳の転出が多くみられ、誕生を期に住環境を変えるケースが多いと考えられる。

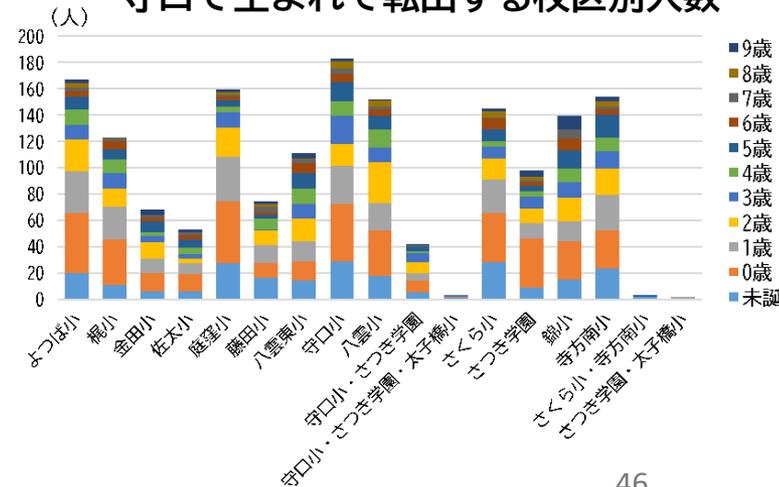
転入する子どもが選んだ校区



守口市に転入して再度転出する校区別人数



守口で生まれて転出する校区別人数

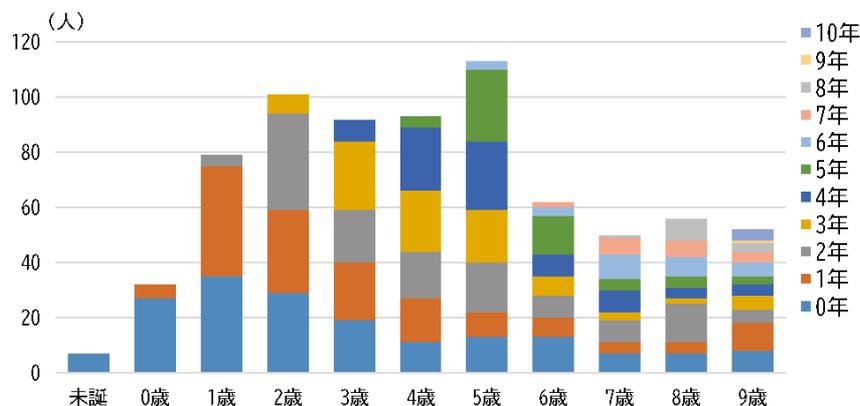


【4】⑤ 転居・転出の統合分析（年齢別居住年数）

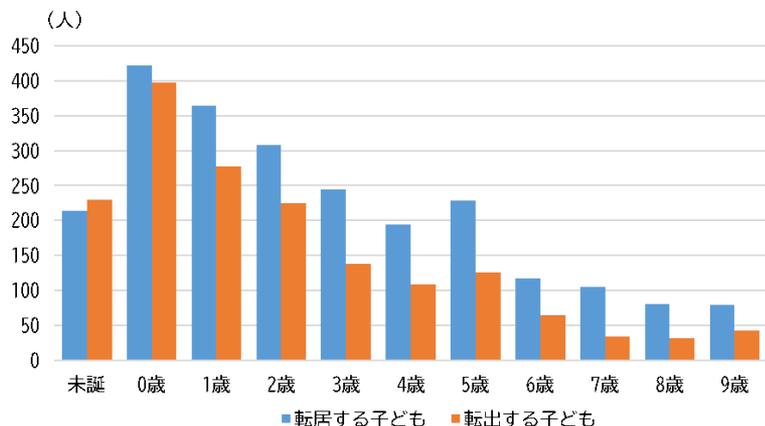
➡ 転入者が次に転出・転居するまでの居住年数の実績を年齢別にみると、居住年数が1～2年でも移動している人が多くみられる。転出は、6歳以降で減少しているが、転居は6歳以降も多くみられる。

➡ 守口市で出生した子が転居・転出する場合、転出は0歳が最も多く、1歳以降は減少する。転居は6歳、7歳でも比較的多くみられる。

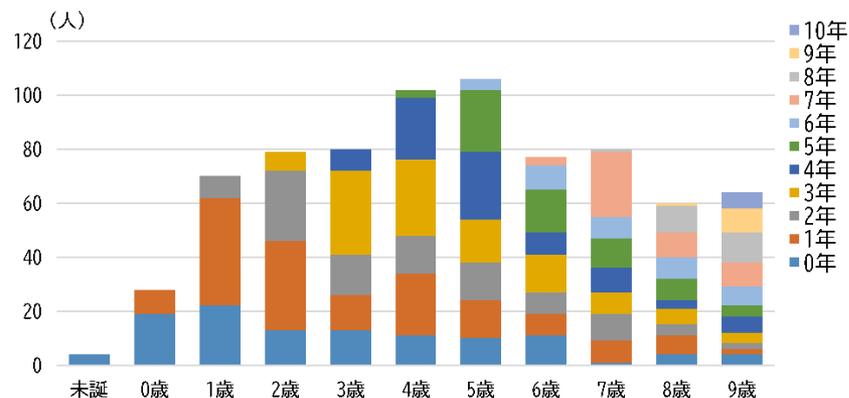
転入者の年齢別の転出するまでの居住年数別人数



守口市で生まれた子が転出した年齢別の人数



転入者の年齢別の転居するまでの居住年数別人数



【5】①子どもの転出入状況の分析（まとめ）

●守口市全体

- ・ 0歳児は2015年度に転入超過に転じ、転入超過を維持している
(転入は2020年度以降は200人弱を維持、転出は2022年度以降は120人前後維持)

(参考) 2017年度から本市独自の「幼児教育・保育の無償化」を開始

- ・ 1～9歳は、2020年度以降、転出超過の年が多い

●転出入（大阪通勤圏）

大阪市地域 転入（0～2歳）が多い

北河内地域 1歳以降は転出超過。

●17エリア別での転居・転出入

よつば小、さくら小、金田小、寺方南小、藤田小校区 転入超過（50人以上）

庭窪小、守口、錦小、八雲東小校区 転出超過（50人以上）

●5歳児の転居・転出入

5歳児の市内選択率の向上が見られる（59.9%→63.7%）。

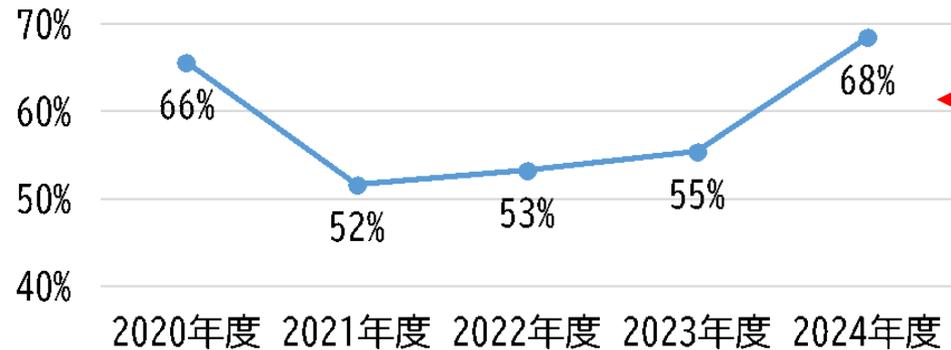
5歳児のみでなく2歳以降で転出抑制が必要となっている。

【5】②守口市内での転居を選ぶ割合（5歳児）

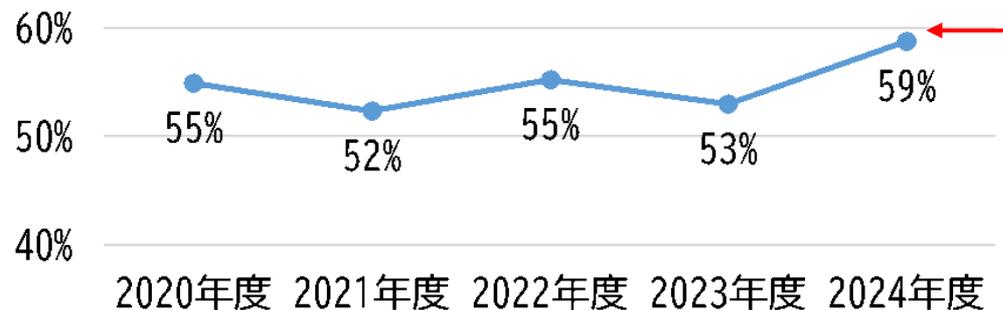
5歳児を対象とした調査では、2024年度は68%で右肩上がりで、5歳児の転出には改善傾向が見られる。

今後も引き続き、転出入が盛んな5歳以下までの市内選択率をあげることで、その後の定住につなげる戦略が必要である。

引越した5歳児のうち
市内転居した割合



引越した5歳以下のうち
市内転居した割合



5歳以下で
算出すると
選択率が下がる

【5】③ 子どもの転出入状況の分析から見える課題

本市独自の「幼児教育・保育の無償化」(2017年度開始)と同じ頃から0歳児の転入が増加し、**転入超過を維持**
(1～2歳は転出入に大きな変化なし)

国よる「幼児教育・保育の無償化」(2019年10月)が開始された。**守口市施策の独自部分(0-2歳無償)**を引き続き伝えていく必要がある。

2歳児以降の子どもについて、大阪市を除く、北河内地域、三島地域等への**転出超過**

市内在住の0歳以降の住宅選択において、守口(=市内転居)を選ぶ割合を高めていくための取り組みが必要である。

校区別では**市内転居**や**市外から転入**が増加している校区が見られる一方で、**転出超過**している校区(庭窪・守口・錦小・八雲東小)がみられる。

新たな住宅供給や新たな住まいを選ぶ場所の選択に影響していることが想定される。**転出超過**となっている校区において、**転出抑制の取組の必要性**について検討する必要がある。